

農事組合法人 千ヶ畑営農組合 組合長

山内 勇さん

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

「組合員のほとんどが兼業農家中、高齢化が進み農業を続けていくのは大変だが、互いに助け合いの精神で皆と一緒に農業に取り組んでいる」と話すのは、亀岡市畑野町千ヶ畑地区の農事組合法人「千ヶ畑営農組合」組合長の山内勇さん(67)。

同地区は同市の最西端にあり、南は大府能勢町、西は南丹市園部町の「のり深自然公園」を経て、兵庫県篠山市と接する標高250〜300㍎の山間地の、約200枚の棚田で稲作を中心とした農業が続けられている。霧が出ることが少なく、市中心部より気温が2、3度低いことが特徴だ。

同法人は1985年に設立。集落の今後を見据え、昭和から平成にかけて、圃場(ほじょう)や農道の整備、

地域一体で農業守る



▲ 棚田に実った稲穂を手にする山内さん

みその加工販売などを通して集落基盤の整備に取り組んできた。山内さんは「組合長を務めて10年目を迎えたが、就任当初の10年前、さらには法人設立時の35年前と比べても、状況が大きく変わってきた」と話す。

現在、高齢化で耕作ができなくなった農地を法人で受託管理し、畦畔(けいはん)、農道、水路の防災・保全対策や管理についても法人で対応している。基幹作業の作業受託を増やし、農業機械の共同利用を進め

ることで低コストの農業も推進している。個人の負担を減らすことで、皆が住んでいる環境を保持し、農業が地域と住民をつなぐ役割を担う。しかし、鹿やイノシシによる獣害が年々深刻になっている。防除柵の点検補修や電気柵の増設を法人で行っているが、鹿やイノシシが隙間を見つけて農地に入り農作物を荒らすので、被害を受けた圃場は、二度と侵入されないよう圃場ごとに周囲全体に防護柵を設置しているため、

費用が増えているのが課題となっている。

山内組合長は、今後さらに多くの新規就農者を受け入れていかなければならないと考えており、今年度は2人の新規就農者を受け入れた。今後もし引き続き新規就農者の確保、育成を目指していくこととしている。「これまでは地元で組合員だけで農地を守っていくことを考えていたが、外から意欲のある若者を地域に受け入れて、農地を維持していかないと地域を守っていくことは難しい。新規就農者にも組合員になってもらうことで、初期投資を抑えた農業を支援していく」と今後の方針を語った。

■法人所在地 亀岡市畑野町千ヶ畑 繩手48。(電)0771(28)2257。

■法人概要 1985年設立。理事7人、組合員数32人。経営面積 農業作業受託約1・5㍎(キヌヒカリ・酒造好適米「祝」、白大豆など転作物ほか)、農業機械の共同利用、みそ加工・販売。農業機械 トラクター、コンバイン、管理機、畔付け機各1台、田植え機2台、自走式草刈り機、播種(ほこ)機など。